史料紹介

篤姫と福川本陣

会員　西村修一

今年（二〇〇八年）から放送されているＮＨＫ大河ドラマ『篤姫』が好評である（原作・宮尾登美子）。大河ドラマ史上最年少の主演である宮崎あおいさんの初々しさ、凛凛しさもその要因かもしれない。

視聴率はほぼ二〇％台の好調をキープし、一〇月五日放映（第四十回「息子の出陣」）では、それまでの最高視聴率二八・一％を記録した。地元の鹿児島では四〇％を超えたときもある。本放送期間中にアンコール放送がなされたのは大河ドラマ史上初めてである。

そこで注目されるのが、篤姫様将軍家お輿入れの行程である。原作・放映とも海路であったが、数年前より地元鹿児島では陸路説が主張されていた（一九九五年の鹿児島県歴史資料センター黎明館の『薩摩の篤姫から御臺所　天璋院』展図録、『薩摩から江戸へ～篤姫の辿った道』半田隆夫著参照）。

篤姫一行の立ち寄りの資料公開に先んじたのは筑紫野市歴史博物館だったように記憶する（四月）。同市の宿場・山家（やまえ）宿は長崎街道と日田往還が交差し、さらに薩摩街道が合流するという交通の要衝だった。旅籠を兼ねていた商家「松尾屋」の『大福万控帳』の嘉永六年九月二日の宿泊者名簿の中に「薩摩御姫様　御登り達」とあり、家来七人が泊まったことが記録されていた。分宿していたと思われるから、篤姫も山家宿のどこかにいたことに相違ない。すると、山口県もこの日にちに近い！

私にとって今年は山陽道で明け暮れた一年だった。春秋の企画展、ウォークイベント、TV撮影にも粉骨砕身する意気込みで頑張った。地元ケーブルテレビ（CCS）の『歴史街道・山陽道の旅〜富海篇』の九月七日のロケのときに、初めて篤姫様が富海の本陣にご休憩されたことを史談会の会長さんのお話で知った。

防府市教委の鞆雅子さんは富海の本陣の石川家文書から篤姫一行休憩の記録を見つけていたのだ。九月には、防府市文化財郷土資料館で「富海を通った天璋院篤姫」コーナーとして原資料を展示していた。その『御大名様御通路控』（嘉永四年〜安政三年）には、「薩州御姫君」と出てきており、「小郡ー宮市ー福川」という「九月九日」の日程のほかに、薩摩側が「御宿礼」として金二百疋を支払ったこと。その際、「御茶代」を書き直すよう言われたこと。侍一五人分の給仕をしたこと（献立記載）などを本陣亭主は記録していた。

地元ではすでに話題になっていたようだった。説明を引き受けてくれた会長の意気にそれが感じられた。「九月九日、篤姫、福川本陣御泊り」が立証されたのだ。

私に再確認させたのが、山口県文書館で催された一〇月の「天璋院篤姫と長州〜文書の中の篤姫」展だった。萩本藩や徳山毛利藩の一級の資料より篤姫関連の記録が発掘された。

○「記録所日記」嘉永六年（一八五三）〈徳山毛利家文庫・記録所日記九四四〉

薩摩藩→徳山藩、八月二三日付／「松平薩摩守」（島津斉彬）の「御娘」（篤姫）が九月一〇日に徳山藩領の福川で宿泊の予定。

○「諸記録綴込」嘉永六年九月分〈毛利家文庫・三二部寄一〉

薩摩藩→萩藩、九月一日付／宿泊地・休息地を変更する。

○「御通過録」文政五年〜嘉永六年（一八二二〜五三）〈徳山毛利家文庫・寺社町方二三〉

→徳山藩／篤姫の福川町宿泊は九月九日。

○「諸記録綴込」嘉永六年一一月分（一五日〜一八日）

〈毛利家文庫・三二部寄一〉

「松平薩摩守様御息女様」（＝篤姫）が萩藩領を通過した足跡の記録を載せる。

九月七日／吉田（下関）泊。八日／船木（宇部）昼休、津市（小郡）泊。九日／宮市（防府）昼休。一〇日／花岡（下松）昼休、呼坂（熊毛）小休止、高森泊。

周南市からも年末に篤姫御参府に関する資料が発掘された。残念ながら本陣の福田家文書（『御奉書控帳』）からは該当年間の分が脱落していたが、富田古市の町方で目代（宿駅から宿駅までの人馬駕籠などの準備や用達をなし、その賃銭の徴収するなどの任にあたった地下役／各宿駅に一人置かれる）である庄屋の岩崎家の文書（『御奉書写』）より、嘉永六年九月五日付で当時の徳山藩の役人が出した指示書に「薩摩中将様（斉彬）御娘御参府として、来る九日宮市（防府市）御昼休、同晩福川町御泊、翌一〇日花岡御昼休にて、御領内御通路ならせられ候条」と理由を述べ、古市、新町、平野町の各町に人馬、布団やゴザや据風呂などを福川の目代に届けるよう指示した記述がある。これでも福川宿泊が裏付けられた。

また岩国からも年末より資料発掘の報があった。岩国藩士が藩と近郊の出来事を綴った『岩邑年代記』の嘉永六年九月一一日に、錦帯橋そばで小休止したことや、篤姫のお嫁入りが町で評判になっていたことが記されていた。その夜は大竹市の「久波（玖波）御泊」とある。

また岩国藩内の出来事などを記録した『御用所日記』では、嘉永六年九月一一日の記述に、篤姫は江戸に向かう途中、錦帯橋の渡橋を求めたが、これに対し岩国藩側は破損部分があることや急な申し出に掃除も行き届いていないと断ったが、最期には篤姫側が押し切って渡ったというエピソードが記されている。

以上の資料記録より防長路の篤姫一行の全日程が明らかになった。全日程が明らかになった例は他の都道府県でも珍しいのではあるまいか。

七日、吉田（下関）泊。

八日、船木（宇部）昼休、津市（小郡）泊。

九日、宮市（防府・兄部家）昼休、富海（旧徳山藩・

石川家）小休、福川（周南・福田家）泊。

十日、花岡（下松）昼休、呼坂（熊毛・河内家）小休止、高森（周東・相川家）泊。

十一日、篤姫錦帯橋（岩国）を渡る。玖波（大竹）泊。

篤姫一行は八月二一日に鹿児島を発ち、二九日には熊本。九月十七日に岡山。二四日には大坂、二六日に京都の伏見。一〇月二日に京の近衛邸へ。六日に近江の草津宿。一五日に大井川を渡り、江戸の三田薩摩屋敷に入ったのは二九日だった。

総勢約二六〇名。およそ五〇日かけた行程であった。

資料情報提供に快く応じてくださった筑紫野市歴史博物館の奥村俊久様、山口県文書館の吉田真夫様、防府市教委の鞆雅子様、岩国市教委の松岡智訓様にこの場を借りて謝意を表します。（了）

〔追記〕急な地元の発見でもあり、内容に関して様々な意見や研究が寄せられると思う。徳山藩の役人から町方への指示書というユニークな資料でもあり、当時の町同士の協力体制をうかがい知ることもできます。様々な検討の余地もあろうかと思いますので、時期をあけて原文付きで、富海の資料もあわせて内容を詳報したいと思います。

〔参考文献〕

『薩摩から江戸へ～篤姫の辿った道』半田隆夫　海鳥社　二〇〇八年

『篤姫と大奥』歴史群像シリーズ　学研　二〇〇七年

県文書館「天璋院篤姫と長州～文書の中の篤姫」展

防府市文化財郷土資料館の「富海を通った天璋院篤姫」コーナーと鞆さん